

総務省独立行政法人評価委員会  
情報通信・宇宙開発分科会（第21回）

平成25年8月7日

【酒井分科会長】 それでは、もう皆様ご出席ということですので、若干早いのですが、ただいまから第21回総務省独立行政法人評価委員会情報通信・宇宙開発分科会を開催いたします。きょうは、お忙しいところ、また暑いところ、ありがとうございました。

では、最初に、定足数の関係ですが、委員6名中6名が出席しておりますので、定足数を満たしておりますことをご報告いたします。

続きまして、事務局から委員等の交代、人事異動に伴う事務局側構成委員の変更、配布資料確認、前回議事概要の確認について、ご説明をよろしく願います。

【田沼技術政策課企画官】 事務局でございます。先ほどお話がございましたとおり、今年の7月1日付けで、委員の方々、専門委員の方々におかれましては、一部の方が異動になったということで、五十音順で私どものほうから紹介をさせていただければと存じます。本分科会におきましては、4名かわるということになっております。

まず、東海大学工学部教授の水野秀樹委員におかれましては、これまで専門委員としてお務めいただいておりますところですが、今回の改選で委員にご就任いただいたところでございます。

新たに加わられた方ということで、まず監査法人アヴァンティアのパートナーであらせられます入澤雄太専門委員が新たにご就任されました。

もう一方、三重大学大学院工学研究科の教授であらせられます小林英雄専門委員にも新たにご就任いただいております。

最後に、もう一方、東北大学電気通信研究所の教授であらせられます末松憲治専門委員に新たにご就任いただいたところでございます。

以上が今回の分科会での委員・専門委員にご就任いただいた方のご紹介ということでございます。

次に、僭越ではございますが、弊省のほうでも人事異動がこの夏にございましたので、簡単にですが、ご紹介させていただければと存じます。ほぼ総入れかえに近い状態でございます。

まず、大臣官房総括審議官が久保田から武井にかわっております。

【武井総括審議官】 武井でございます。

【田沼技術政策課企画官】 技術政策課長が田中から田原にかわっております。

【田原技術政策課長】 田原でございます。

【田沼技術政策課企画官】 宇宙通信政策課長が沼田から久恒にかわっております。

【久恒宇宙通信政策課長】 久恒です。よろしくお願いします。

【田沼技術政策課企画官】 あと、宇宙通信政策課推進官が伊沢から作田にかわっております。

あと、私は技術政策企画官でございますが、翁長から田沼にかわったところでございます。

以上、総務省側の変更ということでございます。

次に、配布資料の確認でございますが、お手元に大部の資料がございまして大変恐縮でございますが、1枚目の議事次第を裏返していただければと存じます。その裏に配布資料のリストがついてございます。正式な資料ということで、配布資料3部、1から3まで、あと参考資料ということで、1から5まで、合わせて8部ほど資料をつけております。これは、ご説明の都度ご確認いただきながら、もし不足のもの等ございましたら事務局に申しつけいただければと存じます。

次に、あわせまして議事概要の確認もさせていただきますが、お手元の資料21-1番の資料、1枚物でございます。これにつきましては、後ほどお目通しいたきまして、内容に誤り等ございましたら、後日で結構ですので、事務局宛てご連絡を頂戴できればと存じます。

事務局からは以上でございます。

【酒井分科会長】 どうもありがとうございました。

それでは、お手元の議事次第に従いまして議事を進めていきたいと思っております。

最初に、議題の(1)ですが、私が分科会長として分科会を主宰できない場合の代行をお願いする分科会長代理を決めておきたいと思っております。分科会長代理は、総務省独立行政法人評価委員会令第5条第5項の規定によりまして、分科会長が指名することになっておりますので、私から指名させていただきます。分科会長代理として、土井委員をお願いしたいのですが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【酒井分科会長】 では、一言お願いします。

【土井委員】 ただいま酒井分科会長から分科会長代理に指名されました東芝研究開発センターの土井です。この評価委員会、7年目です。宇宙開発分科会のほうを担当させていただきます。よろしくお願いいたします。

【酒井分科会長】 どうもありがとうございました。

それでは、議題の（２）独立行政法人情報通信研究機構の平成24年度業務実績評価、これにつきまして審議に入りたいと思います。

最初に、事務局からNICTの評価取りまとめ状況についてご説明をお願いします。

【田沼技術政策課企画官】 それではご説明させていただきます。

まず、審議に先立ちまして一言ご報告でございますが、総務省の独立行政法人評価委員会議事規則第9条によりまして、各事業年度の業務実績評価は分科会の議決をもって委員会の議決とすることができるとされております。このため、今回の議題（２）の平成24年度の評価は本会合の決定をもって今月の27日に予定されております親会に報告をするという位置づけになっておるものでございます。

また、今回の議論にあわせて、関係の委員会の情報ということでございまして、NICTの業務のうち、財務省との共管の部分というのがございます。具体的に申し上げますと債務保証、出資、利子補給の業務。これにつきましては、独立行政法人情報通信研究機構法第23条第2項第1号の規定に基づきまして、財務省の独立行政法人評価委員会から当評価委員会宛てに、7月18日付でございますが、「平成24事業年度における債務保証業務、出資業務及び利子補給業務に関する独立行政法人情報通信研究機構の業務については、出資業務、債務保証業務について目標の十分な達成に課題を残しているものの、全体として政策ニーズを適切に踏まえて順調に遂行されており、中期計画の実施状況は順調である」という旨のご意見をいただいておりますことをご報告させていただきたいと存じます。

それでは、具体的に今回の審議のほうに入ります。NICTの平成24年度評価としまして、本日の資料で申し上げますと資料番号21-2に基づいて説明をさせていただきたく存じます。あわせて、参考資料として21-1というものが、大部でございますが、ついております。これも適宜ご参照いただきながら見ていただければと存じます。

本日の説明は、21-2の中で、表紙についてございます、大きく分けますと全体的評価表、項目別評価総括表とございますが、この中で一番概略的にまとめられております1番目の全体的評価表に基づいて簡潔にご説明させていただきたく存じます。

では、早速、資料をおめくりいただきまして、ページで申し上げますと3ページになりますが、お開きいただければと存じます。評価表につきましては、大きく2つに分かれています。今ごらんいただいておりますのが平成24年度全体的評価表、1枚目につきましては、まず全体についての評価ということで、大きく2項目、評価項目がございます。

1枚おめくりいただき、上のほうをごらんいただきますと、2枚目以降は主要な観点についての評価ということで、具体的に4項目ほど挙げておりまして、それに基づいた個別の評価といった構成になっております。

まず、3ページの全体的評価につきましてご紹介させていただきます。最初に、当該年度における中期計画の達成度というところでございますが、ここにつきましては、結論から申し上げますと、今回は5年計画の2年目ということになりますが、計画は十分達成したといった形でご評価をいただいているところでございます。具体的には、項目別の評価で申し上げれば、全項目、21項目ございますが、AAの評価をいただいたものが6件、Aをいただいたものが15件といった評価になっております。

そのほか、2パラグラフ目になりますけれども、ICTの分野というのは非常に重要だといったことをここでは強調していただいております、NICTの取り組みとしまして、2行目に入りますけれども、4つの重点開発領域いずれにおいても目標以上の成果を得ているといったご評価を頂戴しているところでございます。

引き続きまして、当該年度における業務運営の改善その他の提言ということで、ここでは5点ほど改善のご提案を頂戴しているところでございます。

まず、1点目ですが、人件費のお話でございます。これは、実は一昨年度の評価におきましては、数値目標が達成できていなかったということで、この項目につきましてはBの評価を頂戴していたところでございます。ただ、24年度につきましては、1年おくれということではございますが、その目標が達成できたということで、ここは高く評価いただいているところでございます。ただ、1項目の後段にございまして、人件費の抑制というものが研究者のモチベーション低下につながらないような努力をしていただきたいといったご提案をいただいているところでございます。

2点目につきましては、2行目のところをごらんいただければと存じますが、研究成果というのは、もっとわかりやすく国民に伝えないといけないですよといったご提言を頂戴しているところでございます。

次、3点目でございますが、ここにつきましては、産学官共同研究の一層の拡大といっ

たことですか、研究成果の産業界への移転、国際標準化の推進と、こういった役割も積極的に果たしていただきたいといったご提言を頂戴しております。

4点目になりますが、これはNICTのポジションということになりますが、企業でもなく、大学でもない、ICT分野の唯一の公的研究機関だということを踏まえた上で、社会の課題解決にリーダーシップを発揮していただきたいといったご提言を頂戴しているところでございます。

5点目につきましては、国際貢献という視点でございますが、アジアを中心とした人的ネットワークの構築について努力しているところは評価をいただいているところですが、これについてはまた一層の努力をしていただきたいといったご提言を頂戴しているところでございます。

以上が全体的な評価になります。

1枚おめくりいただきまして、今度は個別の評価の主要な観点についての評価ということで、4つの視点からの評価内容についてご紹介させていただきます。

まず、1点目、業務運営の効率化についてでございますが、1ポツ、2ポツございますが、1ポツ目上段でございますとおり、一般管理費、事業費とも目標を上回る業務の効率化を達成したといったご評価を頂戴しているところでございます。ただ、ご提言のところでもございましたとおり、経営の効率化を図るというのは結構ですけれども、一方で、必要な人材をきちんと確保していく配慮も必要ですよといったところをご指摘いただいているところでございます。

引き続きまして、2点目、業務の質の向上のところにつきましてご説明させていただきます。この中は、まず研究開発の重点化、その次に研究支援・事業振興について、3点目で研究開発課題について、順に説明をさせていただきます。

まず、研究開発の重点化につきましては、ご承知のとおり4つの技術領域、具体的に申し上げますとネットワーク基盤技術、ユニバーサルコミュニケーション基盤技術、未来ICT基盤技術、電磁波センシング基盤技術と、この4つについてきちんと重点化した研究開発が行われたということで評価をいただいているところです。個別具体的には、例えば3点目で書いてございますとおり、論文発表数ですとか、研究開発成果の報道発表数といったものは目標を大きく上回っているといったようなことをご評価いただいているところでございます。

次に、2点目の研究支援・事業振興の観点でございまして、これについても、1行目に

ございますとおり、所期の目標は十分に達成しているというご評価をいただいているところでございます。ただ、具体的には、下ほどに3つほどポツがございますが、海外研究者の招へいですとか、情報弱者に対する支援事業、あるいはソフト面からの支援というのを重視したベンチャー支援については、引き続きしっかりやってほしいといったご指摘を頂戴しているところでございます。

3点目の研究開発課題。これは非常に記載として長いところでございますので、かいつまんでのご説明ということになりますが、結論から申し上げますと、おめくりいただいて、一番上の行になりますけれども、NICTの世界におけるプレゼンスを高める多数の成果が得られたといった、非常に高い評価を頂戴しているところでございます。

具体的には、例えばネットワーク基盤技術のところについては、4行目の後段以降にございますマルチファイバーの研究についてということで、12コアファイバーで、ファイバー1本当たりの世界最高記録となる1Pbpsの伝送実験の成功といった事例ですとか、あるいはユニバーサルコミュニケーション技術の項目につきましては自動音声翻訳が挙げられます。これについては、2行目以降にございますとおり、民間5社へのライセンスングをしたといったことですとか、さらに、4行目になりますと言語翻訳ということになりますが、特許抄録の自動翻訳システムの実現が1.5年前倒しできた、かつ民間2社に技術移転できたといったようなところを高く評価いただいているところでございます。

また1枚おめくりいただきまして、次の財務内容の改善についてご紹介させていただきます。平成24年度の決算につきましては、一般勘定、基盤技術研究促進勘定、債務保証勘定、通信・放送承継勘定、この4つの勘定につきましては当期総利益を計上しておりますということで、全体としましては適切な収支計画、資金計画のもとに運営しているといった評価を頂戴しているところでございます。

最後、その他ということで、人事に係るマネジメント等ということでございますが、こちらにつきましても、例えば施設及び設備に関する計画については、年度計画に基づいてきちんと実行されたといったことですとか、あるいは人事面での能力主義に基づいた有期雇用職員の昇給制度を導入するといったことですとか、あるいは無線LANの整備を進めることでペーパーレス化を図っているといったようなことを評価いただきまして、業務の改善等しっかり取り組んでいるといったご評価をいただいているところでございます。

以上、駆け足で大変恐縮でございますが、平成24年度のNICTの業務実績に係る評価の概要ということでご報告させていただきます。

【酒井分科会長】 どうもありがとうございました。

それでは、審議自体は後ほど行う予定ですけれども、今の説明につきまして、委員の皆様から、特にこの評価を書かれた皆様から補足がございましたらよろしくお願ひいたします。いかがでしょうか。部会でも議論して、そのまとめという形でここにも書いてありますので、よろしいですか。

それでは、議題（２）につきましては、NICTに入室いただきまして、こちらのほうから確認したい点など、質疑を行いたいと思います。入室していただいて確認した後、後ほどまた委員だけで審議時間を設けてありますので、ご了解いただきたいと思います。

それでは、NICTに入室していただきたいと思います。

（NICT関係者入室）

【酒井分科会長】 それでは、NICTの方々にお入りいただきましたので、確認したいところ等の質疑をお願いいたします。

【土井委員】 質問よろしいですか。

【酒井分科会長】 どうぞ。

【土井委員】 資料21-2の4ページ目から5ページ目の冒頭に書かれている特許と論文に関してなんですが、4つの分野に関してそれぞれ書いていただいているのですが、特にネットワーク基盤技術が、特許出願ですと前年度のほぼ倍近いぐらい、論文数も50%増しぐらい出ているんですけど、これは特別な何か要因があったのでしょうか。そのあたりを教えていただければと思ったんですけど。ほかのところは前年度というのが書いてないので、前年度に対して24年度がどうだったかわからないのですが、このところは特にすごく多くなったなあと思うので、もし何かこういうものがあったから増えたんだとか、そのあたりを教えていただければ幸いです。

【大久保NICT理事】 すみません、細かい要因というのは承知をしておりますけれども、ネットワーク部分については、ようやく成果が、実際に社会に使えるものとか、そういうものが出てきていると。成果がようやく出てきたというところかなと理解しております。特にこれだということで、イベント的なものが大きくあったというふうには私も把握しておりませんでした。もし間違えがありましたら、改めてまたご説明させていただく機会があればと思っておりますけれども。

【土井委員】 はい。

【酒井分科会長】 ほかいかがでしょうか。たしか前回は特許と論文で、割に論文に偏

っているかなという話もあったような気もしましたが、もうちょっと特許が出てもいいのではないかとかいう。ネットワークだけじゃありませんけれども、そういう話もあったかもしれませんが。ほかの点いかがでしょうか。

【梅比良委員】 よろしいでしょうか。

【酒井分科会長】 はい、どうぞ。

【梅比良委員】 梅比良でございます。業務運営の効率化というところで、一般管理費のほうが前年度比5.9%減で、かなり大きく減っているようですが、これは何か特別なことをやられたのか、そこをお教え願えれば。

【高崎NICT理事】 失礼いたします。一般管理費につきましては、この中に占める人件費の割合というものがかなり多いということがございまして、平成23年度でございますけれども、まことに申しわけないことながら、これについて、平成17年度の人件費に対して6%以上削減するという目標は達成できなかったと、このような事情がございました。このため、24年度におきましては人件費の削減に相当力を入れまして、超過勤務の縮減でございますとか、あるいは新たな外部への出向ポストの獲得、研究職員の外部機関への転籍などによる人材流動化を進めたということもございまして、この人件費について、もちろん例の震災に伴います特例的な給与の10%近い減額ということもございましたけれども、そのような事情も含めましてこれだけの減額が達成できたと、こういうことでございます。

【梅比良委員】 はい、わかりました。ありがとうございます。

評価のところでもいつも問題になるのですけれども、人件費を減らすということは、結局、人数を減らしていることになっているのではないかなと思うのですが、人数を減らすということは、結局、研究開発は人の力なので、その辺の維持がすごく大変になるような気がするのですが、何か特別な工夫とかをもしされていたらお伺いできればと思います。

【大久保NICT理事】 研究開発に対する人件費、特に人の確保が一番大きなところというのは私どもも認識しておりまして、特にNICTにおいては新しい研究分野というのいろいろ出てくる中で、正直言って非常に苦労しているところでございます。その分効率化に関しては、研究というよりは業務的なところで精いっぱい効率化を図り、研究のところはできるだけしわ寄せを少なくするという努力をしてきたというのが正直なところでございます。ご指摘のとおり、どうしても人件費を減らす中で研究者へのしわ寄せが出てくるというのはありますけれども、このような形で最大限努力しているところでござい

ます。

【梅比良委員】 私ばかりしゃべって大変恐縮なのですが、未来永劫には多分下げられないと思うのですね。やはりどこかでフロアを引くようなカーブにならないといけないように思うのですが、実際のことはN I C Tの中でしかわからないので、その辺は包み隠さず、もしほんとうに危ないようだったら、この場でもどこでも結構でございますので、挙げていただけるようにぜひお願いいたします。

【大久保N I C T理事】 ありがとうございます。特に研究費や人件費の関係につきましては、N I C Tだけの問題ではなくて、全ての科学技術に携わる研究独法等の共通の問題ということで、いろいろな場面でご議論されていると聞いております。私ども、そういうところを注目しながら、引き続きそのご指導に従って努力していきたいと思っております。ぜひ先生方のご支援もいただければと思います。

【酒井分科会長】 確かに難しいところで、私も、そういう意味で、総人件費の抑制が研究者のモチベーション低下につながらないように努力いただきたいとは書きました。総人件費が減ると、どうしたって。個人の給料も減っているところがあると思いますし、何とかそのところをうまくやっていたきたいと思います。

ほか、何かございますでしょうか。どうぞ。

【土井委員】 契約についてですが、随意契約から競争契約にということで、一般競争入札が行われていると思うのですが、資料の中に、従来の公募期間を10日から15日以上にしましたということで、それは参入業者を拡大するためにはいいことだと思うのですが、一方、5日間延びるというのは、I C Tの分野においては結構フェイタルな部分もありまして、そのあたり、どういうふうにバランスをとっていくかというのは今後の課題だと思うのですが、どのようなバランスを考えておられるのか、もしご意見がありましたら教えていただければと思います。

【高崎N I C T理事】 全くご指摘のとおりだと思っております。私ども、国全体として、あるいは独立行政法人について、会計の明朗化、税金を主な財源としておるという性質もございまして、これまでいろいろなご指摘もいただきながら一般競争入札の拡大、あるいは、その中でも特に応募者の方が増えるようにという努力を重ねてまいりましたけれども、一方で、また競争入札にするということで、余計と言ったら言い過ぎかもしれませんが、時間が多くかかってしまって、おっしゃるようなハイスピードで進んでおります研究開発の競争の中において、これが一つの制約条件になってきているという事情も確かに

否めないところかなと思っております。このあたりについては、政府与党のほうなどでもまたいろいろな形で見直しもされていると私どもも漏れ聞いているところがございますが、この点につきましても、もし可能でございましたら先生方からまたいろいろアドバイス、あるいはお力添えをいただければありがたいと思っております。

【土井委員】 はい、どうもありがとうございました。

【黒田委員】 じゃ、よろしいですか。

【酒井分科会長】 どうぞ。

【黒田委員】 4ページのところで、ITU等の国際標準化に関して、勧告の成立に役割を果たしたとありまして、また、標準化の人材の育成でも大きく寄与しているというのは、具体的にはどういうふうに行われているのか教えていただきたいのですけど。

【大久保NICT理事】 標準化につきましては、実際に私どもの技術の世界に出していくという観点で、まず研究者の方々に、積極的にそういう会議に出て行って、成果を出してもらおう。これが基本でございますが、その中で特にドラフティングをするときのキーパーソンに入る。議長、副議長、それからエディタ等へ入るということで、実際に標準化に貢献できるように活動してきているというところでございます。

【黒田委員】 何人ぐらい出ておられるのでしょうか。

【大久保NICT理事】 国際会議等での役職数は20ポスト14名、それからエディター、セクレタリーのところは21ポスト16名、さらに国内での審議会等の委員についても積極的に参加してございまして37ポスト20名、こういう形で、全体で年間400件を超える寄書、もしくはその草案作成に携わっております。

【黒田委員】 はい、わかりました。ありがとうございます。

【酒井分科会長】 ほかの点いかがでしょうか。どうぞ。

【生越専門委員】 すみません。再び特許の件で恐縮なのですが、5ページを見ると非常にたくさんのお願をされておりますが、お願するだけでは権利にならないので、審査請求をされている件数とか、もしわかれば。あと、海外のほうへのお願はどういうお考えでなさっているかということをお聞かせ願えればと思います。

【大久保NICT理事】 すみません、審査の件数までは把握しておりません。

【生越専門委員】 詳細なデータはお持ちじゃないということですが、海外への特許出願もかなり意識されているんですか。

【大久保NICT理事】 はい。基本的に、この分野の技術がどこの地域や分野で広が

っていきそうかというのを踏まえて、もちろん厳選して取り組みますけれども、基本的には海外の特許も前提に出してきております。

【生越専門委員】 ありがとうございます。すみません、あと1点いいですか。

【酒井分科会長】 どうぞ。

【生越専門委員】 マルチファイバーとか自動音声翻訳というのは、ICT技術をあまりよく知らない国民の方もすごいなって非常にわかりやすいと思うのですが、こういったことを、提言にも入っていたので国民への説明が必要というのもあるのですが、今後どういうふうに説明していく方向でいらっしゃいますか。

【大久保NICT理事】 広報活動の強化は従来から取り組んでいるところでございます。数的には、これまでもやってきてはおるんですけども、専門家以外にもわかりやすい技術は確かにすぐわかっていただいて、記者の方にも書いていただけ、それを新聞にも取り上げていただけ、テレビでも上げていただくと、こういう形になっているので、ぜひそういうふうに応用できておると思います。

一方で、なかなかその先に進めないのは、わかりにくい技術も多くこれについては、どうしても記事にさせていただくには難しい面がございます、そういう場合はあえて少し大胆な意識だなという形にして出すとか、もしくは図をできるだけ簡単にして出すとか、こういう工夫を加えて、ご理解をいただけるような形にするよう取り組むなど、まさに広報部門の腕の見せどころということで、努力をしているというところでございます。おかげをもちまして、その成果もあってか、報道の件数は大体同じなのですが、新聞に載るとか、さらにテレビに出るとかという回数はかなり増えてきたなど、実感しているところでございます。ただ、まだまだ努力はこれからかと思っております。

【生越専門委員】 ありがとうございます。

【酒井分科会長】 ほかいかがでしょうか。

【三谷委員】 1つ、3ページ目ですが、中期計画の達成度ということで、ICT分野の進展は極めて早いから、適宜、分野間の連携、分野の見直しというのはかなり重要なと思いますが、今年度、既にそういった意味での前向きな見直し等を始めておられるものがあれば教えていただければと思います。

【大久保NICT理事】 今年度は特に分野を連携してやるという活動で、新しくサイバーセキュリティの分野でのセンターの立ち上げ、これは、情報処理と、それから、まさにセキュリティ活動の部分の連携センター、それから耐災害の部分で連携センター、これ

はまさに実用を目指して無線、有線、それから情報処理、情報分析の部分の連携、こういうものをやっております。

それから、新しく拠点としてようやくスタートできました脳情報の分野についても、実際に脳の単純な活動解明部分だけではなく、それをどう使っていくかということでの分野連携など、こういう形で連携できる仕組みを順次追加しているところでございます。

また、これはまだスタートできている部分ではないのですが、これから重要になってきますビッグデータの解析。このような研究分野も、これは情報収集から、伝送、分析ということで、こういう分野間連携が必要になってくるということで、新たに連携のシステムをつくっていかうということで準備しているところでございます。

【三谷委員】 ありがとうございます。

【酒井分科会長】 ほかいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、どうもありがとうございました。ここでNICTの方々にはご退席いただきまして、こちら委員のみで審議を行いたいと思います。どうもきょうはありがとうございました。

【高崎NICT理事】 ありがとうございます。

(NICT関係者退室)

【酒井分科会長】 それでは、今の議題（2）ですが、NICTの平成24年度業務実績評価につきまして、いかがでしょうか。これでよろしいか、あるいはもっと修正が必要でございましたらお願いいたします。

【土井委員】 2点ありまして、項目としては同じところなのですが、業務運営の効率化に関するところで少し。

【酒井分科会長】 あ、この中で。

【土井委員】 はい。今の資料情分21-2の9ページ目です。大きいほうの冊子、参考情分21-1のほうにもあるのですが、契約に関しましては、ちょっと気になるのは三菱電機の不適切請求問題と、NTTアドバンステクノロジー社にかかわる契約額過大というものがありまして、それに対して対応を行ったというのは事実であります。が、それをそのまま対応ができたならAというふうに評価していいのかどうか。すみません、この事実は23年度のことであり、今回の評価は24年度で別だからAでよいという考え方だったのか、というあたりを、どういう審議の結果こうなったかというところを教えていただきたいというのが1点目です。

それを受けて、全体のところで、なるべく契約に関しては簡便に行えるようにして、研究自身に負担がかからないようにするというのも大事だとは思っています。が、発注した内容はきちんと行われたか、その管理はしないといけないので、そのあたりのことが3ページのその他の提言というところに触れられていないのがちょっと気になりましたということなのですけれども。そのあたり、どういう審議の結果でこういうおまとめになったのか、教えていただければと存じます。すみません、JAXAのほうは結構それがいろいろ議論になりましたので、それだけ一層気になるんです。

【酒井分科会長】　　そうですか。23年度のご指摘のとおりのことというのもありまして、それほど大きな議論はしなかった点だったと思いますが、ここにつきまして事務局のほうで補足はありますか。

【徳部技術政策課課長補佐】　事務局のほうから補足をさせていただきます。

まず、三菱の案件でございますけれども、三菱の案件が24年1月に発覚をいたしまして、そこからNICTのほうで調査をいたしまして、その調査結果の報告が出ましたのが24年12月ということになっております。そこから、その報告書を踏まえまして、今後の対応策を一応審議いたしておりますので、その対応策が今後うまく機能するか、また、これが有効であるかどうかにつきましては、今後の取り組みにかかっているというところでございますが、まずはその報告書を踏まえて、どういった対策を行ったのかというところを評価いたしまして、Aという形で、そのような評価をさせていただいているというところでございます。

【土井委員】　　いや、それはそれで、そちらをそういう意味でAと評価されたのは今のご説明で理解できましたが、だとすれば、その他の提言のところにそういう対応をきちんとすべきではないか。はっきり言えば、自分たちで見つけ出すことができなかつたわけですから、体制に大きな課題があるわけです。それできちんとやるようにという話をその他の提言のところに書いておく必要があるのではないかと感じたのですが、いかがでしょうか。

【酒井分科会長】　　わかりました。確かに、その他の提言のほうは、私がかかり書いた部分もあるんですけれども、あまりそこを強く意識しなかったのは事実です。事務局、何か意見はありますか。

【徳部技術政策課課長補佐】　その点につきましては、今の土井先生のご指摘を踏まえて、ちょっとご相談をさせていただきたいと思います。

【酒井分科会長】 ちょっとそこにつけ加えて。私自身、これにつけ加えることに異存はありませんけれども、自分のほうの意識が少し低かったということは確かです。

【土井委員】 いえいえ。

【酒井分科会長】 わかりました。じゃあ、評価書のAのほうはいいとして、その他の提言に、今のことをもう少し、きちんとこれからもやるようにということできぎを刺しておく、そういうことでよろしいですか。

【土井委員】 はい。

【酒井分科会長】 では、そうさせていただきます。

【土井委員】 すみません、あともう1点です。今のその他の提言の(1)のところの書きぶりが、少し理解がしづらい書きぶりになっているような気がするのですが、1年おくれで達成するなど、全ての目標を達成したことは高く評価できるが、24年度にやったことで高く評価できることがあるのであれば、1年おくれでやったということをわざわざ挙げなければいけないという、ちょっとここが何か矛盾があるんですね。ほかにもっといいことで達成できているのだったらそれを挙げていただいて、その後からの総人件費の抑制がというふうに、いい研究をしているんだからモチベーション低下につながらないようにしてねという書き方のほうが、人件費の話は研究の話ではないので、マネジメントが頑張った話なので、ちょっと何かメッセージとして、研究でこれだけ頑張ったのだからモチベーションを下げないでねという書き方にさせていただいたほうがいいかなと思ったんです。

【酒井分科会長】 わかりました。要するにこういうことですね、この意識としては、私のほうから説明しますと、とにかく人件費を全体として頑張って下げたと。それはいいのだけど、何かと人件費を下げると、先ほど梅比良委員のほうからありましたとおり、研究者のほうは大丈夫なのだろうかという心配がありましたので、そこはちゃんとしてねというつもりで書いたのですが、少しそのところで、すみません、どういうトーンがいいですか。全ての目標を達成したというのは、こことあんまり合わないのかな。

【土井委員】 総人件費の数値目標を達成しつつも、着実な研究成果を上げているということは高く評価できるみたいな形で書いていただくと、研究者にもっと、そういう意味で、あなたたちの研究は評価しているんだよ、マネジメントにちゃんと総人件費の達成目標もやっていますねという、その両方に対してプラスのメッセージは送れるので。

【酒井分科会長】 最後に、少し余計なことかもしれませんが、人件費の抑制と

いうのは、いろいろ怖い面もあるので気をつけてほしいとか。

【土井委員】 はい、それは大事だと思います。

【酒井分科会長】 わかりました。今のトーンで私も異存はないんですが、どうですかね。

【徳部技術政策課課長補佐】 事務局でございます。ここ、1年おくれで達成する等と書いた意図でございますけれども、前年度の評価におきまして、同じような形で達成できなかったということは指摘されておきまして、それにつきましては、平成17年度比のマイナス6%につきましては、法律や閣議決定でそれを守らなければいけないと決められておりましたので、こういった形で特出しをさせていただいていると。このようなことから、今回につきましては、ちゃんとその指摘につきましては達成できたということで、ここに掲げさせていただいているというところでございます。

以上でございます。

【酒井分科会長】 そこで、目標としてはいろいろやった、研究もちゃんとやったということを、ここに文章として入れる必要があるかどうかということですね。

【徳部技術政策課課長補佐】 そういった意味では、昨年度、指摘を明確に受けておりますので、そういった点では、ここは一言つけ加えておいていただければ。

【酒井分科会長】 数値目標を1年おくれで達成する等は、これは書いていいのですよね。

【徳部技術政策課課長補佐】 はい。

【土井委員】 そうか。だとすると、こういう文章だったらよろしいですか。総人件費の数値目標を1年おくれで達成しつつも、研究成果を着実に達成している点は高く評価できるというような形でいいですか。全ての目標をというのが何を指しているのかが不明確になるので。

【徳部技術政策課課長補佐】 わかりました。ありがとうございます。

【酒井分科会長】 1年おくれで達成して、研究成果がうんと下がったのならあんまり評価できないからという意味ですね。

【土井委員】 はい。

【酒井分科会長】 要するに、研究はちゃんとやって人件費を一生懸命下げた。それはよくやったと。だから、やたら人件費を下げ、その後、研究者がおかしくならないようにちゃんとやってほしいということで。じゃあ、しつつもという話にしておきますかね。

【徳部技術政策課課長補佐】 はい。

【酒井分科会長】 それは中身としては異存ありません。

ほかありますか。

【梅比良委員】 すみません、大した話じゃないので。背景でよくわからないので教えていただきたいんですけど、同じ3ページの一番下なんですけど、アジアを中心にしたというのを特にここに書いてあるのはどういう背景によるものなのですか。

【酒井分科会長】 これはアジアとの連携についてかなり積極的にやっているのですね。ですから、そのところはもっとしっかりやってほしいという意味で書いた意見なのですが。

【梅比良委員】 なぜこういうことを言ったかという、標準化なんかだったら、結局、欧米とのコネクションがあるほうが圧倒的に大事なのですよね。アジアでやるというのは、どういう背景があるのかなというのがちょっとわからなかったものでお聞きしてみたのですけれども。

【酒井分科会長】 部会の議論では逆に、アジアと一緒にアフリカもという話もあったのですけれども、現状やっているのがアジアで、アフリカのほうまでは現状始まっていないので、将来的にアジア、アフリカとちゃんとやりたい。標準化という意味だけじゃなくて、いろいろな意味でアジアを中心に一生懸命やっていることは事実ですので、そこは書いておきたい。アフリカも確かに将来的にはそうなのだけど、少しそこを抑えたという程度の話なので。

【梅比良委員】 わかりました。アジアとやること自体に異議を唱えているわけでは全くないので。

【酒井分科会長】 欧米ともかなりやっていますね。国際共同研究とかいろいろな形で。何となく、欧米のほうは特にここに書かなかったんですね。部会で指摘を受けたのは、欧米は当然だと。次にアジアとやって、なぜアフリカは書かないのかという話があったのですが、できるかどうかという話があったのでちょっとためらっているという状況です。

【梅比良委員】 はい、わかりました。どうもすみませんでした。了解いたします。

【酒井分科会長】 では、よろしいでしょうか。

では、ちょっと確認いたしますと、先ほどの土井委員の、ちょっと文章をつけ加えていただいて、一番上のところは、しつつも、研究をしたということもちゃんと入れて、また一番最後のところで、先ほどの経理問題について、今後もきちんとやってほしいというこ

とを入れるということで、ちょっと文章をつくっていただいてということでよろしいでしょうか。では、ここではそういう若干のエディトリアルな修正をするということでご了解いただきたいと思います。

ほかございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、今の議論を踏まえまして、評価結果の（案）、若干エディトリアルな修正をしまして、8月27日に開催されます評価委員会（親会）に報告したいと思います。具体的な評価内容につきましては、私に一任させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

【酒井分科会長】 どうもありがとうございました。

それでは、次に議題の（3）です。独立行政法人宇宙航空研究開発機構の平成24年度業務実績評価、これにつきまして事務局から説明をお願いいたします。

【作田宇宙通信政策課推進官】 それでは、宇宙通信政策課の作田のほうから説明をさせていただきます。今回、この独立行政法人宇宙航空研究開発機構の平成24年度の業務実績に関する評価につきましても、NICTと同様に、この分科会の議決をもって委員会の議決にさせていただいておりますので、今回、分科会が終了いたしましたら、その後、27日に親会のほうに報告させていただくとともに、JAXAのほうにつきましては、文科省の独立行政法人評価委員会のほうにも報告をさせていただくということにさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、資料情分21-3、それから参考情分21-2、評価調書（案）に基づきまして説明をさせていただきますが、時間の制約もございますので、資料情分21-3に基づいて基本的な概要説明をさせていただきたいと思います。

まず、お手元の資料情分21-3、独立行政法人宇宙航空研究開発機構、平成24年度業務実績に関する評価書（案）、全体的評価表（案）、それから項目別評価総括表（案）をご準備ください。おめくりいただきまして、まず最初が全体的評価表（案）になっておりますので、これに基づいてまず説明させていただきます。

おめくりください。3ページ目になります。平成24年度独立行政法人宇宙航空研究開発機構の業務実績に関する全体的評価表（案）ということで、説明させていただきます。全体的な評価といたしまして、項目別の評価、後のほうにありますけど、これの結果等を勘案いたしまして、事業の実施、財務、人事に関するマネジメント等の観点から評価をさ

せていただいております。項目、全体的に4つに分かれてありまして、最初が実施の実施ということで、事業に関する評価になっております。おめくりいただいて、5ページ目が、2つ目、業務の合理化・効率化という観点。もう一つおめくりください。3項目は評価／プロジェクト管理。最後に、7ページ目に、4項目で安全・信頼性に関する事項というふうに、ちょっと項目を区切って説明をさせていただきます。

お戻りいただきまして、3ページ目、1つ目の事業の実施から説明をさせていただきます。事業の実施につきましては、各種事業の実施に関して、全体として中期計画に沿った年度計画は着実に進行し、中期目標に向かって、または中期目標を上回るペースで順調に実績を上げたと認められる。なお、高く評価できる主な項目は以下のとおりということで、以下、項目別の中で特筆すべき項目について列挙させていただきます。なお、ご参考までに、事業の名称の後に衛星測位プログラムであれば「3S」と書かせていただいておりますけど、これは後の項目別の評価表の中の第3項目が評価Sであったということを示すものでございますので、参考までに申し上げます。

最初に、衛星測位プログラムですけれども、項目が3つございまして、1つ目は、衛星測位プログラムにつきましては、「みちびき」という準天頂衛星を使用した衛星に関する事業についての説明になります。GPSの精度を向上させるということで、この「みちびき」から精密な補正信号、LEX信号というものを送信しておりますけれども、これを利用した精度の向上に関する項目でございまして、これについては、目標の精度（水平方向で30センチ以内、垂直方向で60センチ以内）を上回る精度、結果的には20から25センチ、垂直については30から40センチを達成したということが高く評価されております。

また、測位の精度の向上に関しまして、軌道と、それからクロック、時計ですね。その誤差を推定するツール、MADOCAというものが開発されておまして、これを用いまして、さらに精度の向上がなされております。これによって、特にすぐれた測位の精度の向上がなされると評価されております。

また、この「みちびき」の衛星を含む測位衛星のシステムが複数ありますけれども、これをアジア・オセアニア地域において利用する取り組み、複数GNSSアジアというものが立ち上げられておまして、これが推進されている。JAXAが中心となって推進されていることが非常に高く評価されているということになっております。ここは特にすぐれていると評価されておまして、それ以下、基本的には年度計画に沿った評価になっておりますけど、その中での特筆すべきを幾つかピックアップして説明させていただきます。

3 ページ目の 2 つ目の項目、衛星の利用促進ということで、もう既に運用中の衛星が幾つかございます。GOSAT、ALOS、AMSR-E、TRMM、GCOM-W1 等という地球観測の衛星が複数運用中でございますけれども、こういうものから得られたデータにつきましては、気象分野、農林水産分野等々の分野の関係者にデータが提供されており、この提供実績が平成 23 年度から約 3 倍に増加しているということで、多くの研究機関に評価されているということでございます。

次、下のほうで、宇宙探査の項目でございます。これは皆様ご存じの小惑星探査機の「はやぶさ」の関係でございます。「はやぶさ」が回収いたしました、小惑星「イトカワ」の微粒子の分析結果などを学会で発表されております。

次、おめくりください。4 ページ目でございます。研究公募によって選定された世界の科学者に、「はやぶさ」で得られた資料のサンプルを分配いたしまして、非常に多くの方に研究機会を与えたということとともに、NASA のジョンソンスペースセンターに「はやぶさ」のサンプル受け入れの専用設備がつけられるなど、非常に日本の存在感が発揮されたということでございます。

また、月周回衛星「かぐや」の観測データの解析を行った結果、世界で初めて、月地殻の形成過程、巨大衝突を裏づける痕跡などが明らかになったということでございます。

また、その「はやぶさ」「かぐや」などの成果を背景に、国際宇宙探査協働グループというところについて、JAXA さんが議長を務められておりまして、こういう分野でも非常に大きなリーダーシップを発揮されているということが評価されております。

次、日本実験棟（JEM、きぼう）の運用・利用というところでございます。星出宇宙飛行士の船外活動実施の結果、日本人の宇宙飛行士の ISS、国際宇宙ステーションの船外活動時間が 41 時間に上り、アメリカ、ロシアに次ぐ世界第 3 位となったということ、また、2 つ目の点で、いろいろな実験が行われておりますけど、その中でも、例えば全天 X 線監視装置というものなどが利用され、極超新星爆発の痕跡の発見、X 線新星を新たに 3 つ発見するといったような著しい功績がございます。また、超小型衛星を最大 6 個同時に放出する世界唯一のシステムも開発されているということでございます。

これまでの ISS をめぐる活動の結果、日本の技術力が認められまして、安全評価の権限が NASA から JAXA にも委譲されるということもございました。

次、基幹ロケットの維持・発展ということで、これは基本的に H-IIA、それから H-II B ロケットの関係でございます。これにつきましては、基本的に順調に打ち上げが実施

され、成功いたしましたして、結果的に打ち上げ成功率が通算で96%、オンタイム打ち上げ、定刻の打ち上げ率が91%を達成するということが、世界各国の基幹ロケットの信頼性に比肩するレベルに達しているということが評価されております。

また、打ち上げ関連の施設・整備についての設備更新、運用性の改善にも努められておりましたして、維持費が平成16年度比で15.5%、約7.1億円削減するといった、運用効率の改善も行われているということが評価されております。

国際協力につきましては、先ほども幾つか国際関係の協力に関することも申し上げましたが、それに加えまして、国際宇宙航行連盟（IAF）の会長職ですとか、国連宇宙空間平和利用委員会（COPUOS）の議長にもJAXAの役員が選出されるなど、非常に指導的な役割を国際分野においても果たされております。また、それによって日本の地位向上も貢献されております。アジア地域におきましても、APRSAFの開催ですとか、センチネルアジア、SAFE等も着実に実施されておりましたして、そういうところでも貢献されており、また、ベトナム、トルコへの宇宙分野での支援も行っているということが評価されております。

次の項目、業務の合理化・効率化につきましては、全体として中期計画に沿った年度計画は着実に進行しており、中期目標に向かって順調に実績を上げたと判断されます。

この中で幾つか評価できる項目等々がございますので、その一つとして、柔軟かつ効率的な組織運営というものがございます。これまで複数の部署で行っていた有人宇宙技術の開発業務を、幾つかの部署が分散して行っていたものを有人宇宙環境利用ミッション本部有人宇宙技術センターという一つの部署に集約を行ったということで、1つ改善された項目があったということが評価されております。

また、経費の合理化・効率化というところで、一般管理費の分野におきましては、東京事務所の借り上げ経費の削減をはじめとした物件費の節約などが行われており、平成19年度比で15%削減が実施されております。それ以外、その他の事業費においても、同じ平成19年度比で5.7%削減が実施されており、その他、機能の統合等による縮小なども含めて経費の合理化・効率化が図られているということが評価されております。

おめくりをいただいて、6ページ目でございます。ただ一方、あまりうまくいかなかった部分もございまして、今後の改善が期待される点として、情報技術の活用というところがございます。情報セキュリティの強化対策に取り組んだものの、平成24年11月に、新型固体ロケット「イプシロン」ですとか、従来の固体ロケット「M5」、大型ロケット「H

ーⅡA」「HーⅡB」の技術情報が流出をしてしまったということが判明しております。こういったロケット技術というのはミサイル転用の懸念もあるということで、一層こういった情報漏えいに対する対策を取り組むべきだという指摘がされております。

次、3項目で、評価／プロジェクト管理でございます。これにつきましても、先ほどと同様に、全体として中期計画に向かって着実に実績を上げたと判断されます。その中で、評価できる項目としては、1つ目、内部評価及び外部評価の実施ということで、内部評価、外部評価につきましてはJAXAさんの中においても着実に実施されておる。宇宙科学の研究については、海外の有識者も交えた外部評価が実施されておるということでございます。

また、プロジェクト管理も行われておりまして、プロジェクトの移行前、実施前の計画、それから進行中のプロジェクトに対する管理が行われておりまして、例えばプロジェクト移行前の計画については、平成24年度に計4件実施いたしまして、ジオスペース探査衛星プロジェクトというものについては実際のプロジェクトへの移行が決定されたということでございます。進行中のプロジェクトに関するプロジェクト管理については、四半期ごとにプロジェクトマネジャーから理事長に状況が報告されており、継続もしくは見直しというものの管理が行われております。ロケットの関係につきましては、プロジェクトの終了審査を行い、終了が決定されたということでございます。

他方、今後の改善が期待されるという指摘がなされているものが、内部統制・ガバナンスの強化のための体制整備ということでございます。先ほどの情報技術の活用でも申し上げたような、一部不祥事も含むちょっとよくない評価が行われているものがございまして、1つがウイルス感染によるロケット関係の技術情報の漏えい。また、取引先の不正行為によるリスクについては、契約企業、具体的には三菱電機になりますけど、過大請求事件。それから、職員の法令違反等のリスクにつきましては、主任研究員による不正経理事件が発生したということで、内部統制・ガバナンスはさらに強化する必要があるというご指摘がされております。

おめくりください。7ページ目でございます。また、契約の適正化につきましては、先ほどもガバナンスの点で申し上げましたけれども、1者応札の契約が7割を超えており、依然として1者応札の割合が多いと言えますとともに、契約企業による過大請求事件、それから主任研究員の不正な契約ということによる逮捕・起訴という事件が起きておりますので、こういうものの再発防止に努める必要があるという指摘がなされております。

最後、4項目、安全・信頼性に関する事項ということで、全体として中期計画に沿った年度計画が着実に進行し、中期目標に向かって着実に実績を上げたと判断されております。

具体的に1項目しかございませんが、打ち上げの成功、「しずく」という衛星の軌道上の不具合ゼロというものが10カ月以上継続して達成されているということ。それから、品質管理においても、ソフトウェアに関する品質管理というものが着実に実施されており、ソフトウェアの品質管理についてのアセスメント基準については、国際認証機関による独自の基準が国際基準に合致していることが認証されている。日本初で取得したなどの取り組みがなされていることをもって着実に実施されたと判断されております。

全体的評価は以上でございます、ここから一部項目として漏れているものもございますけれども、その中身については、次からの項目別評価総括表の中で適宜ご確認いただければと思います。大変申しわけないのですが、1点、11ページ目の地球環境観測プログラムの2ポツ目になります。2ポツ目の下から3行目、7) 開発段階の後の「衛生」の「生」の字が、「星」ではなくて「生」になっております。誤字がありまして大変申しわけないのですが、これは訂正させていただきたいと思います。

以上でございます。

**【酒井分科会長】** どうもありがとうございました。

これについての審議の時間は後ほど設けておりますが、委員の皆様からの補足等ございましたらお願いいたします。この後、JAXAさんに入っていただいても議論をいたしますけれども、その前に、特に担当された委員の方から補足等ございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか、補足は。どうぞ。

**【土井委員】** 細かいことで恐縮なのですが、私も見落としていて申しわけないのですが、4ページ目の上から2つ目のポチの「はやぶさ」「かぐや」などの成果を背景にということで、国際宇宙探査ロードマップという、これ、かぎ括弧じゃなくて、わざわざこれにしているのは何か意味があるのですか。もともとの調書、JAXAが作成したのがそうなるからそうなっているというだけなんですか。

**【作田宇宙通信政策課推進官】** 特に何かを変更したということはございません。

**【土井委員】** いや、こうやって打ち出してみると、すごく気になるなあとと思って。

**【作田宇宙通信政策課推進官】** わかりました。それでは、かぎ括弧のほうにさせていただきます。

**【土井委員】** 項目のほうもそうなっているので。

【作田宇宙通信政策課推進官】 はい。

【土井委員】 細かいことで恐縮です。

【酒井分科会長】 ほかよろしいですか。

【知野専門委員】 すみません、よろしいでしょうか。

【酒井分科会長】 はい、どうぞ。

【知野専門委員】 さらに細かいことなんですけれども、5ページ目の一番最後のところ、野木レーダーステーション、第3期中期計画に国庫納付と、こうなっている。第3期中期計画中に行うという、そういうことですか。

【作田宇宙通信政策課推進官】 わかりました。「第3期中期計画期間中に」ということで訂正させていただきたいと思います。

【酒井分科会長】 ほかよろしいですか。

【土井委員】 あ、ほんとだ。見落としちゃった。

【酒井分科会長】 ほかよろしいですか。

それでは、今ご説明いただいたところにつきまして、JAXAの方々に入ってくださいまして質疑を行いたいと思います。その後、また委員のみで審議の時間を設けております。

それでは、JAXAの方、よろしいですね。

(JAXA関係者入室)

【酒井分科会長】 それでは、委員の皆様から、JAXAの方々に質問・ご意見等をお願いしたいと思います。

JAXAのロケットのところに書いてあったか忘れたのですが、成功率の話がありますよね。

【土井委員】 96%。

【酒井分科会長】 何ページでしたか。

【作田宇宙通信政策課推進官】 4ページ目の一番下に書いてある。

【酒井分科会長】 わかりました。すみません、この評価書のところで、打ち上げ成功率96%、オンタイム打ち上げ率91%と、かなりいい形で書いてあるのですが、これ、具体的に、例えば一番いいのはどのくらい。要するに、この96%、91%というのはかなりいいような気もするのですけれども、実際どのくらいものなのか、ちょっと教えていただければ。例えばアメリカはどうだとか。

【山浦JAXA理事】 JAXA、山浦でございます。

まず、ヨーロッパのアリアンというのがございます。アリアン5というのが今かなり活躍しておりますが、これが97.6%でございます。我々、先般の「こうのとり」4号の打ち上げに成功しましたので、お手元の資料より少し上がってございます。

【酒井分科会長】 そういたしますと、これもかなりトップクラスということで、ある意味ではロケット打ち上げビジネスとしても十分成り立つ範囲に入る。

【山浦JAXA理事】 ビジネスという視点では、いろいろなファクターが入りますが、そういう信頼性、実績という意味では非常に高い。ただし、まだ二十数機でございますので、それがどう評価されるかというのは残っておると思います。

【酒井分科会長】 どうもありがとうございました。

【知野専門委員】 すみません、よろしいでしょうか。

【酒井分科会長】 どうぞ。

【知野専門委員】 契約の適正化のことですけれども、今回、逮捕・起訴という事件が出ましたけれども、100万円未満の随意契約を繰り返していったということですが、この事件を受けて、その後、制度なり何なり改めるなりをされたのでしょうか。

【加藤JAXA理事】 お答えいたします。現在、今回の事案に基づきまして、同じような事案が発生しないような、相手側の業者が個人業者でございまして、この個人業者に何度も契約をしてございましたけれども、特定の研究者、この方のみしか契約をしてないというような事案でございましたので、まずは臨時的措置として、こういう事案を発見できるような対策を現在講じてございます。

恒久的な対策といたしましては、現在、裁判がかかってございますので、その結果も踏まえながら、同じような事案が発生しないような対応を考えてございまして、まず、職員の公費を使っているという意識の向上、それから契約事務の際のチェック機能の強化、それから、その契約が終わった後の監査がございまして、監査機能の強化等々で再発の防止を図っていきたいと考えてございます。

以上でございます。

【知野専門委員】 そういうことは、100万円未満のものに関して、随意契約というのは特に変わらないわけですね。このルールとしては。

【加藤JAXA理事】 はい。やはり契約事務の事務上の事務量の問題がございまして、このところ、現在そこまでは考えてございません。

【酒井分科会長】 どうぞ。

【末松専門委員】 7ページ目の4番の項目で、安全・信頼性に関する事項で、「経営層が深く関与することで、打上げの成功及び「しずく」の軌道上不具合ゼロ」と書いてございますけれども、具体的に経営陣が深く関与という内容というのをちょっと教えていただければと思うのですけれども。【酒井分科会長】 向こうが書いたのか、こっちが書いたのか。

【土井委員】 多分私が書いたんです。

【酒井分科会長】 中身はあちらも知らないかもしれないので。

【土井委員】 どういう順で書いているんだっけ。結構プロジェクト管理を経営層が直接やっているんですね。それをもとに書いたのですが、この言い方が曖昧であれば書き直しをいたしますけれども。

【末松専門委員】 プロジェクト管理という意味ですね、これは。

【土井委員】 はい。

【末松専門委員】 わかりました。

【土井委員】 そういう意味では、「経営層みずからプロジェクト管理をするということ」というのが正しい言い方ですね。今思ってみると。

【末松専門委員】 わかりました。ありがとうございます。

【酒井分科会長】 直接JAXAの方にする質問ではなかったかもしれませんが、今のところで何か補足がありましたら。よろしいですか。

【山浦JAXA理事】 今の土井先生のご説明のとおりでございます。しっかりと審査会、あるいは進捗状況報告の場を設けて、細かいところも見逃さぬよう、それから、その措置についてのフォローアップ、そういったことを徹底してやってきておりますので、おっしゃったとおりでございます。

【酒井分科会長】 わかりました。

【末松専門委員】 よくわかりました。ありがとうございます。

【酒井分科会長】 ほかの点いかがでしょうか。

【梅比良委員】 じゃ、1点だけ。毎年出ている話で大変恐縮なのですが、7ページ目のところの契約適正化のところ、やはり1者応札が多いということがずっと言われていて、なかなか減らないと。オープンな仕組みはいろいろつくられていて、かなりのことも出しているのだけど、結果的にこうなるというのは、この分野で活動されている企業が少ないんだよというお話とかも随分お伺いしているのですけれども、これもなかなかこれ以

上はいかないものなのか、あるいは何かまたさらに工夫される余地があるのか、もし考えておられることがあったらお聞かせ願えればと思うのですが。

【加藤 JAXA 理事】 お答えいたします。宇宙研究開発の特殊性そのものがございまして、従来、随契でやっていたものを競争入札という形でやろうとしてございます。1 者応札になった場合の、ほかの関心があつて応札しなかった企業などに聞いてみますと、やはり特殊性がございまして、なかなか応札ができなかったというのがございますので、できるだけ努力はしてまいりたいと思つてございますけれども、今これとっていい手があるかと申しますと、なかなかそこら辺が難しいなというのが実感でございます。

【梅比良委員】 わかりました。どうもありがとうございます。

【酒井分科会長】 どうぞ。

【土井委員】 6 ページ目のところの情報技術の活用なのですが、毎回この評価をしていて思いますのは、情報技術の活用の中に問題になっていますセキュリティの話もでございます。一方、ここにシミュレーションという話もあつて、残念ながら、最近ですと、そのシミュレーションでいい成果を上げても、一方のほうの情報流出の話で消えてしまうのですね。そういう意味では、I S という同じ部門が担当されているのだとは思つていますが、情報技術の活用ということであれば、その部分が評価できるように少し評価項目の見直しをしていただいて、ここにかかわっている方たちの成果がもう少し目に見えるような、セキュリティの話と情報技術を使ってシミュレーションをきちんとやっていますという話は分けて評価を考えていただけるとありがたいなと思つています。

以上です。

【山浦 JAXA 理事】 はい。まさに土井先生ご理解のとおりでございます。もう S をつけるべしというぐらいのものを出しておりますが、足を引っ張っておる部分がある。これは評価の項目立て以外に、やはり JAXA として、情報セキュリティ、あるいは情報システムのセキュリティのあり方について、これを受けまして、副理事長、トップの今までより上位の委員会を設置し、さらにこれを組織の中で、誰がどの部分を責任持つてやるかというところ、見直しは既にいたしまして、鋭意行いますということで、組織の中でもそれがしっかりと別な種類の目標として掲げて仕事ができるように進めておりまして、ほんとうに頑張った人間がこれでディスカレッジされないようにということも含めてケアしてございますが、そういうことでやらせていただいております。ありがとうございます。

【酒井分科会長】 ほか何かございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、ここでJAXAの方々にはご退席いただき、我々委員のみでの審議を行いと思います。JAXAの方々、どうもお忙しい中ありがとうございました。

【山浦JAXA理事】      ありがとうございました。

(JAXA関係者退室)

【酒井分科会長】      それでは、JAXAの24年度業務実績評価につきましてはいかがでしょうか。コメント、ご質問等ございましたら。随分フォーマットは違うのですね。片方はSなのに片方はAになっていますし、項目もかなりNICTのと違うのですが、これはそれぞれありますので仕方ないと思います。いろいろプロジェクトをやっておられるので、その評価が中心になっていますけれども、あまり研究論文とかそういうようなことはここには書かないものなのですか、普通は。

【土井委員】      研究論文は、総務省の担当の中には基礎研究とか入っていないんです、残念ながら。文科省側で評価しています。

【酒井分科会長】      わかりました。じゃ、仕方ありませんので。

【作田宇宙通信政策課推進官】      補足させていただきます。16ページ目の情報開示・広報・普及の項目のところで、そんなに多くはないのですが、査読付論文の観点も評価の対象とは一応なっております。

【酒井分科会長】      わかりました。

【水野委員】      細かなことで恐縮なのですが、今見ている資料21-3の6ページのプロジェクト管理、24Aの最終行です。「LNGエンジン、H-II Bロケット、HTVに関しては、プロジェクト終了審査を行い、終了を決定した」というのがちょっと引っかかっていて、もとに相当するところが、参考情分21-2の144ページだと思うのですが、こちらのほうは別にエンジンだとかロケットだとかと書いていなくて、LNGプロジェクト、H-II Bプロジェクト、HTVプロジェクトと書いてあるんですね。

で、何が気になっているかというと、たしかLNGは、ほかへの応用も考えて、細々と研究は続けていくような気がしているのです。ですから、もし問題がなければ144ページのほうの表現に合わせて、それぞれプロジェクトは終わった、というようにしたほうが正確なんじゃないかなという気がしたのですが、いかがでしょうか。

【知野専門委員】      その点、よろしいでしょうか。同じことだと思います。細々と研究を続けているというのは、基礎研究としてやっているという意味だと思います。プロジェクトということになると、やはりスケジュールがあり、投ずるお金も全然違います。LN

Gエンジンに関しては、GXロケットプロジェクトが中止になったことで、とりあえず汎用性のあるLNGエンジンを目指して研究開発を完成させるというところでプロジェクトは終わっています。

【水野委員】 終わりましたよね。

【知野専門委員】 ですから、そのことを書いただけです。プロジェクト終了審査を行い、終了を決定したというのは同じことだと思いますけれども。

【水野委員】 いや、この21-3の資料で、実際にまだLNGをやっている方は……。

【知野専門委員】 でも、それはプロジェクトではありません。

【水野委員】 そうですよ。

【知野専門委員】 JAXAは、基礎研究は幅広くいろいろなものを行っています。とりえず大きなプロジェクトとしては、これでひとまず終了であるということです。

【水野委員】 そうそう。だから、それは全然異議ないですよ。ここはエンジンを終了すると書いてあるのでしょうか。それはちょっとニュアンスが違う。

【知野専門委員】 LNGエンジンのプロジェクトに関しては、ひとまず終わったということなので、特別に表現を直す必要はないと思います。

【水野委員】 6ページの表現は144ページの表現と若干ニュアンスが違わないかなというのが質問の趣旨で、それは違わないというご回答ですね。

【酒井分科会長】 明確な事実違反がなければということ。だから、これが事実と違うかということですね。ですから、LNGプロジェクト、何とかプロジェクト、何とかプロジェクトについて、プロジェクト終了審査を終わり、終了したと。こちらの文章は、エンジン、ロケット、HTVに関して終了審査を行い、終了を決定した、これが違うのか、同じなのか、ちょっと私は……。

【知野専門委員】 同じことだと思います。こういう評価で大事なものは、何を評価しているか、何を書いてあるかが、読んだ人にきちんと伝わることだと思います。

【水野委員】 もちろんそうです。一応分科会の中でそこら辺はご出席の皆さんも了解されていたと。

【梅比良委員】 私のほうもこの文には絡んでおまして、これは言葉が足りないというのは、多分プロジェクト終了を決定したと書いたほうがより明確になるということをおっしゃられるのだと思うのですが、この文言で全然問題ないと思います。中身としては、知野委員が言われたとおりです。

【水野委員】　　そうですか。わかりました。そこら辺の議論、ちょっと欠席していたものですから。例えばH-II Bロケットのプロジェクトが終了したというのは、ある意味、民間への移行がスムーズに行ったというような理解だと思えるのですけれども。

【梅比良委員】　　LNGエンジンも同じようにプロジェクトが終了したという意味です。

【酒井分科会長】　　要するに、その3つについては、私、中身はよくわからないんですが、プロジェクトとしては終わったと。

【梅比良委員】　　はい、プロジェクトという形で進行するのは終わったと。そのときに、何かの技術があったときに、しっかりこのスケジュールでやりましょうというのは、プロジェクト移行審査があってやるということで、それが一応終わりましたよと。その後、じゃあ技術をどうするのかという話は、もうご承知のとおりで、多分基礎研究という位置づけで……。

【水野委員】　　そうですね。

【梅比良委員】　　で、その内容をこの文言があらわしていないのではないかという話だと思えるのですけれども、これであらわしているつもりです。

【水野委員】　　そうですか。皆さんがそれで納得されていれば、特に異議を唱えるつもりはありませんけれども、若干ニュアンスが違うのではないのかなというのが少し気になりますので発言させてい——いただきました。皆さんそれで了承ということであれば結構です。

【土井委員】　　今回は非常に慌ただしくて、結局、フェイス・トゥ・フェイスの会合はJAXAから説明をいただく1回しか開けず、あとは皆文章審議で、メールベースで行いました。そういう意味で、ですから、ここに関しては皆さん読んでいただいて問題ないと判断されたということですので、水野委員からのご指摘を踏まえるとする、もし書くとすると、プロジェクト終了を決定したと、3つ同じなのでそういうことだと思えるのですが、そうするとまたプロジェクト終了審査を行い、プロジェクト終了を決定したというのも、あまりにもプロジェクト、プロジェクトとなってしまうので、ここはプロジェクト管理に関して、移行するものは移行し、進行しているものは四半期ごとにきちんと理事長に報告を行うという管理が行われ、終了するものに関してはきちんと終了しましたと。プロジェクト管理をして、管理というプロセスがきちんと行われていますという事実を淡々と述べています。それ以上のものはないので。

【末松専門委員】　　例えば、文章なのですから、「プロジェクト終了審査を行い」ではなくて、単に「終了審査を行い、プロジェクト終了を決定した」というふうにしたほう

がわかりやすいのではないかと思うのですが、水野委員はいかがでございましょうか。そうすると、終了したのがプロジェクトであるというのがわかりやすいので。

【水野委員】 例えば「LNG、H-II B、HTVに関しては、プロジェクト終了審査を行い、終了を決定した」というのはだめですか。

【知野専門委員】 組織としてプロジェクト終了審査を行った上で、終了と決めたということなので、手続をきちんと踏まえたものであると書いたほうがいいと思います。

【水野委員】 —じゃあ、LNGとHTVをパラに並べたときに、HTVで読む方はわかるのですか。

【知野専門委員】 ですからLNGエンジン、H-II Bロケットというふうに書いているわけです。

【土井委員】 そうですね。ロケットを追加されているのですよね。

【酒井分科会長】 要するに、この3つに、LNGエンジンとH-II Bロケット、HTVに関しては、正確に言うとプロジェクト終了審査というのがあって、そのプロジェクトの終了を決定したと、中身はそういうことなのですね。

【水野委員】 この表現で結構です。

【酒井分科会長】 そういう意味で、これについては、ちょっと私、中身はあまりよくわからないのですが、要するにプロジェクトというのはH-II Bロケットプロジェクト、HTVロケットプロジェクト、LNGエンジンプロジェクトというのがあって、そのプロジェクト終了審査を行って、そのプロジェクトを終了したというのが少し略してあると、そういうふうに解釈すればよろしいですね。

【水野委員】 そうですね。多分、知野委員もよくご存じで、私がお話したいことも伝わっていると思うのですが、LNGについて、いろいろ経緯がありました。だから、そのところを、プロジェクトというのとエンジンというので、担当している方、あるいはそういった方が「うん？」と思わないのかなというようなところを気にして、これで皆さん了解ということであれば、それはそれで結構です。

【酒井分科会長】 ああそうか。これは今正式に言うと、多分これからJAXAの方々はこれを見て、評価結果については異議はないはずなのですがけれども、事実として全然違うということがあったら、それは多分そういったご指摘が来ると思いますので。ということですね、手続的には。

【作田宇宙通信政策課推進官】 もし事実誤認がありましたら、また皆さんにお知らせ

させていただいて、分科会長、部会長と検討させていただきたいと思います。

【酒井分科会長】 ですから、担当した方々がこれをごらんになって、これが非常におかしいと思ったら、そういう指摘が来るわけですね。

【梅比良委員】 これ、いわゆるプロジェクト管理についての話をしているところなので、LNGエンジンをやめたということをプロジェクト管理のところではあるはずがないわけですね。ですから、そういう誤解は多分生じないと思っています。

【酒井分科会長】 じゃあ、よろしいでしょうか。

【水野委員】 了解しました。

【酒井分科会長】 それでは、ほかの点は何かございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、先ほどマイナーなものがちょっとありましたけど、それは直していただくということで、全般としてJAXAの平成24年度評価につきましては、基本的にはこの案のとおりとさせていただき、8月27日の親会に報告したいと思います。

それでは、議題（4）として、その他報告事項ということで、事務局のほうからお願いいたします。

【田沼技術政策課企画官】 事務局でございます。

まず、NICTに関してでございますが、参考資料のうちの21-3というものがございます。これは表題のとおり、情報通信研究機構の平成24年度の財務諸表でございますが、こちらにつきましては、7月18日の財務省における独法評価委員会、そして同月26日の総務省のNICT部会と、こちらにおきまして、いずれも特段の意見等がないということでございましたので、独立行政法人通則法の第38条第1項に基づきまして、7月31日、先月末付をもちまして、NICTに対して承認を行ったものでございます。

NICTに関しては以上でございます。

【作田宇宙通信政策課推進官】 それでは、続きまして、JAXAの方の報告事項をさせていただきます。同様に、参考情分21-4という資料がございまして、これがJAXA分の財務諸表になっております。これにつきましては、先ほどの平成24年度の業務実績に関する評価と同様に、7月26日から31日までの間、文書審議において分科会を実施させていただきました。この中で、特段問題なく、これを承認すべきだというご意見を頂戴いたしましたので、その旨文部科学省のほうに回答させていただいております。

次の資料でございます。参考情分21-5をごらんください。これにつきましては、今回は、JAXAにつきましては第2期中期目標期間の最終年度ということもございまして、

第2期中期目標期間、平成20年から24年度の5年間になりますけれども、この業務実績に関する評価書の文書審議の結果でございます。この文書審議につきましては、JAXAの部会と、それから情報通信・宇宙開発分科会を、並行して7月25日から29日までになりますけれども、これも文書審議で実施させていただきました。

結果につきましては、表記についてのご意見を一部頂戴いたしましたけれども、基本的に内容については特段のコメントがありませんで、承認されております。承認の結果につきまして、参考情分21-5をごらんいただきたいと思います。時間もございませんので、ごく簡単に説明させていただきます。

22ページをごらんください。評価の評定について簡単に説明させていただきます。1の国民に対するサービスその他業務の質の向上につきましては、S評価を6ついただきました。その他11についてはA評価。中期目標、5年間の目標、計画の達成度100%ということになっております。

業務の効率化につきましては、A評価が5、それからB評価が3ということになっております。B評価につきましては、24年度の評価でBを頂戴したものと同様のガバナンス、それから情報技術、それから契約の適正化というところがBになっております。

最後、予算・その他につきましては、A評価4ということになっております。

最後、23ページ、参考の審議スケジュールをごらんください。本件、スケジュールの都合上もございまして、今回は文書審議をさせていただいたことが多かったですので、改めてスケジュールについて説明をさせていただきます。第28回の宇宙航空研究開発機構部会、7月12日に開催させていただきました。その後、各委員、専門委員の皆様には評価表(案)をご作成いただきました。中期目標期間、5年間の評価につきましては、7月25日から29日まで、分科会と部会を共同ということで文書審議を実施させていただきました。これにつきましては、もう既にということになりますけど、8月1日から9日、あさってまでの予定で、独立行政法人評価委員会、親会において文書審議がされております。この議決をもって、8月16日に予定されております文科省の独立行政法人評価委員会のほうに報告をさせていただく予定でございます。

平成24年度の評価につきましては、7月26日から31日まで文書審議をさせていただきました。本日は8月7日、分科会ということで、ご承認いただいたところでございます。これにつきましても、同じ8月16日の文科省の独立行政法人評価委員会のほうに報

告させていただくとともに、8月27日に予定させていただいております総務省の親会のほうに報告をさせていただくという予定になっております。スケジュールはこのようになっておりますので、ご了解いただければと思います。

以上でございます。

【酒井分科会長】 どうもありがとうございました。

それでは、本日の議事は以上ですが、その他全体を通してございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、今後のスケジュールにつきまして、事務局のほうから説明をお願いいたします。

【田沼技術政策課企画官】 先ほど私どものほうからも何度か言及させていただいておりますが、今月の27日に当分科会の親会に当たります総務省の独立行政法人評価委員会が開催されます。そこでの主な議事としましては、本日取りまとめていただきましたNICT及びJAXAの24年度の評価結果の報告と、あと、先ほどご紹介ございましたJAXAの第2期中期目標計画の業務実績評価、これにつきましては今審議中ということでございますが、まず審議の結果がまとまったものについてご報告ということになります、それが予定されているということでございます。本分科会の今後のスケジュールにつきましては、また後日、事務局のほうからご報告させていただきたいと思っております。

以上でございます。

【酒井分科会長】 どうもありがとうございました。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして、第21回総務省独立行政法人評価委員会情報通信・宇宙開発分科会を終了いたします。どうもきょうはありがとうございました。